

教育センター通信

ほど 火床の火の心を纺ぐ

第7号(通算134号)
令和7年11月28日

三条市教育委員会
教育センター発行

小中一貫教育
トップページ



令和7年10月22日(水)：四つ葉学園
小中一貫防災訓練 防災さんぽ

授業における「三位一体」

教育センター 指導主事 武石 和仁

中央教育審議会教育課程部会教育課程企画特別部会が、次期学習指導要領の基本的な方向性を示すものとして、9月25日に公表した「論点整理」。この中で、特に「深い学びの実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」の3つの方向性について、「三位一体」で具現化されるべきと示されています。

「三位一体」とは、物事を多面的に捉えるために、少なくとも3つの視点を基に、かつ関連性も踏まえて一体的に考え、進めることの大切さを意味します。今年度も多くの学校で、多様な授業を参観させていただく中で、授業においてもこの「三位一体」の視点が大切であると強く感じています。

では、授業における三位とは何か？

筑波大学附属小学校の山下真一氏は、「目標」と「学習問題○」と「評価」を常に関連付けて授業（指導案）をつくることが大切なポイントである※1と指摘しており、この3つが三位一体であると私も考えます。そして、この三位を一体化するためには、次の3つを自問しながら授業づくりを進めてほしいと思います。

①目標（ねらい）として記述した内容をクラスの子どもの具体像で語れるか？

（例えば、ねらいの「3つの数の混合計算について理解を深める」について、「A児は自分の立式を、『次に』などの言葉を使って表現できる」と語れるか）

②「本時の展開」等に記載した評価方法で、本当に子どもを評価できるのか？

（例えば、ねらいの「消防団の協力が必要であることを具体的に捉える」について、「B児は〇〇という表現をするから、～～で★★の姿を見取る」と語れるか）

③学習問題○を解決すれば、子どもが主体的な姿を伴った形でねらいを達成できるのか？

（子どもの言葉を用いようとする余り、子ども任せの学習問題○となっていないか 本当に問いや願いが基になっているかを自問する）

この「三位一体」の授業が日常化できていれば、「深い学びの実装」となるものと考えます。そして、日頃からこの①～③を一体的に思い描いて授業に臨むことで、子どもの学びの姿は変わっていくはずです。

※1 山下真一「問題解決的な授業、成功の秘訣」『教育科学 社会科教育』No.778 p22 (明治図書 2024.2)

学園紹介

瑞穂学園

11月6日（木）に本成寺中学校で「みずほスクール集会」を実施しました。瑞穂学園の小学校5・6年生と中学生で行いました。小学校5・6年生と中学校1年生のリーダーとして、中学校2年生がアイスブレーキングを担当しました。中学校3年生は出店形式でミニゲームなどを企画運営し、小学生や中学校1・2年生を楽しませました。最初、小学生は緊張していましたが、中学生とのゲーム活動を行うことや中学生の元気な掛け声により、次第に笑顔になり、中学生といっしょに活動を楽しんでいました。閉会式では、各学校の児童会、生徒会で考えてきた宣言を発表しました。そして、学園全体のいじめゼロを目指す「絆づくり宣言」を行いました。小中学校でいじめのない学校を目指す「瑞穂学園絆づくり宣言『笑顔でつなぐ瑞穂の絆』」を全員で確認し、スクール集会を締めくくりました。



アイスブレーキング



中学校3年生企画運営のミニゲーム

しただの郷学園

10月31日（金）、小学6年生と中学1年生が下田中学校体育館に集まり、「深めよう絆スクール集会」を実施しました。前半の講演では、新潟青陵大学 中野 充 准教授より「AI時代における人ととの関わりの大切さ」をテーマにお話しいただきました。特に、SNSなどのやり取りが増える一方で、対面でのコミュニケーションの価値がこれまで以上に重要になること、仲間の気持ちを想像する力の大切さが強調されました。後半は、小中学生の混成グループで「いじめ見逃しゼロ」について話し合う時間を設けました。中学生がリーダー役となり、小学生の意見を引き出しながら議論を進める姿が多く見られました。小学生からは、「中学生が優しく話を聞いてくれて安心した」「他の小学校の友達とも協力できてうれしかった」といった感想がありました。一方、中学生にとっても、小学生を導く立場に立つことで、自身の行動を振り返り責任ある態度を意識する良い機会となりました。



中野 充 准教授による講演



小中学生グループでの話合い

三条おおじま学園

10月28日(火)、大島中学校の体験入学を開催しました。大島小学校と須頃小学校の6年生が中学校の授業や部活動の様子を見学したり体験したりしました。数学の授業見学では、中学生が作った図形の問題をヒントを基に解く体験をしました。音楽の授業見学では、強弱などに気を付けて豊かに表現しようと合唱練習する場面をじっくりと見ていました。また、部活動体験では、中学生が卓球のサーブのやり方やコツなどを丁寧に教え、小学生を励ましながら活動する様子が見られました。

体験中の小学生の表情や反応などには、中学校生活に対する希望や中学生に対する憧れなどを抱く様子が見られました。小学生の振り返りの記述では、中学校入学後の授業や部活動に対して期待や見通しをもつ、よい機会となったことがうかがえました。この体験を通して、中学生は自ら考え、仲間と協力して活動する部活動の意義を小学生に伝えることができました。



授業見学・体験



部活動見学・体験

小中一貫教育新潟県連絡協議会 in 糸魚川

10月21日(火)に糸魚川市ふれあいセンター ビーチホールまがたまを会場に、総会及び研修会を開催しました。三条市からはオンラインで9校の参加がありました。御協力いただきありがとうございました。総会には、新潟県教育庁義務教育課 参事 中村 正人 様から御来賓として御参加いただきました。協議を経て、令和8年度の総会及び研修会を粟島浦村教育委員会の御担当で、令和8年10月23日(金)に、三条市たいぶんを会場に開催することが確認されました。三条市が会場となりますので、来年度の年間予定にあらかじめ入れていただき、多くの方からの御参加をお願いいたします。

研修会では、上越教育大学 特任教授 釜田 聰 様を講師に、「小中一貫教育のこれまでとこれから」と題し、糸魚川市教育委員会の取組を価値付けていただくとともに、現在、国で審議が進められている新しい学校教育について、中央教育審議会「論点整理」に基づき、小中一貫教育の視点から御指導いただきました。「深い学びの実装」における「学びの連続性」が小中一貫教育と大きく関わっていることを再確認しました。また、隠岐島前高校の「地域共生」の取組を御紹介いただき、小中一貫教育と地域とのつながり、未来の学校について考える機会となりました。御講演を通して、今まで実践してきた小中一貫教育に自信を持ち、更なる推進への意欲が高まりました。



総会 代表幹事高橋教育長の挨拶



研修会 釜田特任教授の御講演

防災教育授業研修

10月24日（金）に、栄北小学校にて全三条市立学校教職員を対象とした防災教育授業研修が行なわれました。

三条市では、毎年防災教育の重点実施学園を決めて、学園全体で授業公開研修を実施することで、児童生徒の「自ら危険を回避する能力と姿勢」を培うようにしています。

今年度は、さかえ学園が重点学園を担当し、栄北小学校5年生の総合的な学習の時間において、水害から命を守るために、「My避難計画」を立て、クラスの仲間と内容を見直す授業が行なわれました。

また、授業後には、NPO法人ふるさと未来創造堂事務局長である中野 雅嗣 様から「”なんとなく不安”を”確かな判断”に。『判断して、動く』ための情報活用」という演題で御講演いただきました。御講演では、日々児童生徒の命を預かる立場として、危険が迫る前の正しい情報収集と分析による早めの判断の大切さを御指導いただき、多くの参加者が自分事として考えていました。



ICT教育研修③

ベネッセコーポレーション 高橋 幸一 様を講師に、ミライシードの新機能「カルテ」を中心としたミライシードの新たな機能等について情報提供をいただきました。また、ICTサポートリーダー 柴田 智子 様、ICT支援員の清水 一恵 様からは、三条市内の各校におけるオクリンクプラス等の実践の様子を紹介していただきました。

その後、参会者が小グループに分かれ、自校の取組状況やICT活用についての悩み、取り組んでみたいこと等の情報交換を行いました。柴田様、清水様からはその様子を近くで御覧いただき、適宜質問にお答えいただきました。

今後も、ミライシードなどのICTを効果的に活用いただけるよう、実践例を中心に情報を提供して参ります。ICT活用に関してお困りのこと等がございましたら、教育センターや各校を訪問するICT支援員へ御相談ください。



参会者の感想（一部抜粋）

- ・他校の先生方から情報が聞けてよかったです。活用の仕方だったり、困っていること、対処の仕方など、いろいろなことを話せてよかったです。
- ・同じ悩みを持つ先生との意見交換ができ、学ぶことができた一方で、不安の軽減にもなりました。

自校の取組紹介・情報交換